



海氏物語
四

海



冊41

五曜文庫

乙女

玉蟬

初音

蜘蛛

雲

瞿麦

毎火

△乙女巻

斗と初とつてそそふと

年よりゆきてまはこくと

薄や縁周の形と

衣うぬけうま衣の付らと

千言万語
又も

帝衣院ハまうりの比母院は

おれおれとつてさきつゝ

んまり

桂うたふ 葉えおと桂は

つらひとつて袂やと里か海

いひく 我院へく
ち後 清くよむけり
ひ巻 清くよむけり
〜

てんり日 清くよむけり
清くよむけり

てんり日 清くよむけり
清くよむけり

清くよむけり

清くよむけり 清くよむけり
清くよむけり

清くよむけり 清くよむけり
清くよむけり

清くよむけり 清くよむけり
清くよむけり

清くよむけり

清くよむけり 清くよむけり
清くよむけり

清くよむけり 清くよむけり
清くよむけり

清くよむけり

清くよむけり 清くよむけり
清くよむけり

清くよむけり 清くよむけり
清くよむけり

つやうと、二信二信とも昇進シヤウジン

と云ふこと、此の如くおぼくは、

官位を授けて、其の二信位より

昇進シヤウジンする事、此の如く

く、シロツキ信位を授けて、

三信位より、其の二信位より

昇進シヤウジンする事、此の如く

と云ふこと、此の如くおぼくは、

く、シロツキ信位を授けて、

三信位より、其の二信位より

昇進シヤウジンする事、此の如く

と云ふこと、此の如くおぼくは、

く、シロツキ信位を授けて、

三信位より、其の二信位より

昇進シヤウジンする事、此の如く

と云ふこと、此の如くおぼくは、

く、シロツキ信位を授けて、

三信位より、其の二信位より

昇進シヤウジンする事、此の如く

と云ふこと、此の如くおぼくは、

く、シロツキ信位を授けて、

三信位より、其の二信位より

たあつ督 なるまぢ
あつはつるまひひの院
二条乃東院七 学生乃入
学^{カク} 文章院堂^{モシヤウシダウ} 監^{ダシ}
ま^{キクダス} 薄^{ミヤウフ} ありし^{シキ}
和^ワ 房^{ホウ} 字^ジ 友^{トモ} 二^ニ 二^ニ 名^ナ
^{天祚} 清^{キヨ} 字^ジ 之^ノ 繼^{ツグ} 之^ノ 名^ナ
夕^{セキ} 第^{ダイ} 字^ジ 之^ノ 派^ハ 何^{ナニ} 之^ノ 名^ナ
つとて
上^ウ 之^ノ 初^{ハジメ} 爲^{ナリ} 之^ノ 入^イ 之^ノ 入^イ

あつはつるまひひの院
二条乃東院七 学生乃入
学^{カク} 文章院堂^{モシヤウシダウ} 監^{ダシ}
ま^{キクダス} 薄^{ミヤウフ} ありし^{シキ}
和^ワ 房^{ホウ} 字^ジ 友^{トモ} 二^ニ 二^ニ 名^ナ
^{天祚} 清^{キヨ} 字^ジ 之^ノ 繼^{ツグ} 之^ノ 名^ナ
夕^{セキ} 第^{ダイ} 字^ジ 之^ノ 派^ハ 何^{ナニ} 之^ノ 名^ナ
つとて
上^ウ 之^ノ 初^{ハジメ} 爲^{ナリ} 之^ノ 入^イ 之^ノ 入^イ

向の量しつひえそのまゝ
車流臨席油りり以對
空とありり古まて海成
あ夕人常るゑとわひつりつ也

しつりゆり勅
今日凡學生
在学各々幼長
席初入学皆行束
脩之礼於
師各
布一端

ろくろく
竊也

史記馬遷作
本記十二卷表十二卷
世家廿卷書八卷
外傳七十卷都合百廿卷
為八帙

大學史記之法也

憲試法史記と

文章生の補と次と
文章の業生
文章の業生

福ひの七チ檄文キヤク茶生チヤウと又モト茶チヤウ
切キ茶生チヤウと因ニ外ゲと茶チヤウ生シヤウと
又モト初ハツと茶チヤウ生シヤウと又モト茶チヤウ生シヤウと
又モト茶チヤウ生シヤウと又モト茶チヤウ生シヤウと
又モト茶チヤウ生シヤウと又モト茶チヤウ生シヤウと
又モト茶チヤウ生シヤウと又モト茶チヤウ生シヤウと
又モト茶チヤウ生シヤウと又モト茶チヤウ生シヤウと
又モト茶チヤウ生シヤウと又モト茶チヤウ生シヤウと
又モト茶チヤウ生シヤウと又モト茶チヤウ生シヤウと
又モト茶チヤウ生シヤウと又モト茶チヤウ生シヤウと

おんあやむ部を補左中あ

おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ

おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ

おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ

愚

おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ
おんあやむ部を補左中あ

なほいふ海氏にまゝの
まゝの海氏にまゝの
まゝの海氏にまゝの

まゝの海氏にまゝの

まゝの海氏にまゝの

朝廷真如爵郷

黨真如遠

人種真如遠

海氏にまゝの

海氏にまゝの

史記

物申之始之由之概
海氏にまゝの

海氏にまゝの

海氏にまゝの

海氏にまゝの

海氏にまゝの

海氏にまゝの

海氏にまゝの

海氏にまゝの

海氏にまゝの

海氏にまゝの

してんしふかじつたていりまじ
 のにまじりてそ 杉殿のふか
 海女とていかにいかにいかに
 江波をたふすのふかたつた
 ありていかに
 ありていかに
 ありていかに
 ありていかに
 ありていかに
 ありていかに

風はらうもあつていかに

景 文選 冢土賦 落葉侯

微風以隕而風之力蓋

寡 漢書 王恢謂諱

安国曰夫卓本遭疾

者不可以遭風

といふていかにあつていかに

といふていかにあつていかに

といふていかにあつていかに

といふていかにあつていかに

といふていかにあつていかに

と海氏らうしつるのほし
たりをうり向ふよと兼お
く久とあつしつるあし
わんしつてつららんらん
よしつてつららんらん
風れりゆららんらん
きんらんらんらんらん
てと海氏のほしつる
わんらんらんらんらん

琴之感のひとと文選

孟嘗遺雍門而泣琴

墳
琴之感以未善曰桓子
新論曰雍門周以琴
見孟嘗君君曰先生
鼓琴亦能令文悲乎
封曰竊為足下有悲所
子秋万歳後憤墨生
荆棘游童牧豎踰
之足而歎其上曰孟嘗
君之為矣亦猶若也
於是孟嘗喟然太息
兼腹而未下雍門用引

琴^{キシラ}而^ク鼓^ス之^レ徐^{ユク}動^ク宮^{キク}徵^ク
 揮^{キス}角^{カク}羽^ウ初^シ終^シ而^キ生^ス曲^ク盡^ス
 嘗^{シヤク}君^{クニ}遂^{ツイ}歎^キ歎^キ而^キ悅^{ユク}之^レ也^{ナリ}
 琴^{キシラ}之^ノ感^{カシ}以^モ未^マ也^{ナリ}

琴^{キシラ}之^ノ感^{カシ}以^モ未^マ也^{ナリ}

〃〃〃〃〃

だうんもえけうくわんしう

四^シの^ノ長^{ナガ}の^ノ切^キ也^{ナリ}

だうんもえけうくわんしう

命^メし^シ幸^キし^シの^ノぶ^ブく^クの^ノた^タ也^{ナリ}

命^メし^シ幸^キし^シの^ノぶ^ブく^クの^ノた^タ也^{ナリ}

徳^{トク}公^{コウ}卷^{クワン}の^ノ子^シの^ノた^タ也^{ナリ}

徳^{トク}公^{コウ}卷^{クワン}の^ノ子^シの^ノた^タ也^{ナリ}

〃〃〃〃〃

〃〃〃〃〃

〃〃〃〃〃

〃〃〃〃〃

〃〃〃〃〃

〃〃〃〃〃

〃〃〃〃〃

〃〃〃〃〃

のすゝめをいひたり。

とひひたりとぬのけりて。

母のたまはしにうれしきまの
はかり。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

しるしをいひておのゝけりて。

あり。

しるしをいひておのゝけりて。

東井高つらくありまて

うこならいりたならて

高き殿しやけりて 継父橋

高き物まふしやけりて

高井のあり我よりて

や井のあり独り事あり

くものありまふりて

まふりてありて

高井のありしやけりて

高井の轉しとありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありてありて

高井のありて

らゝあひつゝあはるゝはるゝはるゝ

ゆゑにひかききききききききき

しりりりりりりりりりりりりり

らゝあひつゝあはるゝはるゝはるゝ

はるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ

ゆゑにひかききききききききき

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

はるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはるゝはるゝはるゝはるゝ

いしをのまわすりくま
こまひら あまの あま
のま あま あま
何となく あま あま
あま あま あま

あまの あま あま

あま あま あま

あま あま あま

う あま あま

だ あま あま

作 あま あま

あ あま あま

い あま あま

い あま あま

い あま あま

い あま あま

い あま あま

い あま あま

い あま あま

い あま あま

い あま あま

かきとちてあつり

△しらべのしらべのしらべ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみ

△くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

△くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

くみくみのくみくみ

わりの歌よしき糸綴りして紗
よたかきとあつこしきひきも七
泥^カと結^ヒよりきりぬれ膚^カ
二毛らよつとひひき糸^ヒ白
あつとあつとひきとてあつと
いそら^カ冠^カ解^カしぬらひてなる
おとこいん^カよつとりの跡人
のいけいよつとりのあつと上^ヒ嘗^ヒ
あつとあつとひきとてあつと

ふとあつとひきとてあつと
(興^カの^カあつとひきとて)

はつとあつとひきとてあつと

あつとあつとひきとてあつと
あつとあつとひきとてあつと
あつとあつとひきとてあつと

あつとあつとひきとてあつと

あつとあつとひきとてあつと
あつとあつとひきとてあつと

あつとあつとひきとてあつと
あつとあつとひきとてあつと

あつとあつとひきとてあつと
あつとあつとひきとてあつと

あつとあつとひきとてあつと
あつとあつとひきとてあつと

ききかたし

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

あつちのうらみは

作しあふとて 賢くしむま
 東院の産のつらき 世は
 親と一所 葵よれまて
 口形はりのしむ 治民はま
 りあふとて 賢くしむま
 忠信は 唯之 所定ふとて
 あり白馬と説と

朱草院の御幸 五月十一
 五月二日 仁徳天皇御宇
 院の御幸 村上天皇御宇
 あり 初觀の御幸 父の御宇

朱草院の御幸 五月十一
 五月二日 仁徳天皇御宇
 院の御幸 村上天皇御宇
 あり 初觀の御幸 父の御宇
 あり白馬と説と
 朱草院の御幸 五月十一
 五月二日 仁徳天皇御宇
 院の御幸 村上天皇御宇
 あり 初觀の御幸 父の御宇

二日申及ぞんものりて
いかにのりてはよあつた申
りまきとりのりて

武部といふりては ヒツギ カシマ

いふはひとて勅部 チヨウベ
ふま生のりて武部有 ヒツギ

いふはひとて ヒツギ 朱草院

いふはひとて ヒツギ 法 ヒツギ
勅部 チヨウベ のりて

たらふと ヒツギ カ ヒツギ

むたは ヒツギ へ ヒツギ 儼 ヒツギ たる ヒツギ

いふは ヒツギ あり ヒツギ たり ヒツギ 鳴 ヒツギ

法 ヒツギ と ヒツギ あり ヒツギ 法 ヒツギ 合 ヒツギ

いふは ヒツギ あり ヒツギ あり ヒツギ
いふは ヒツギ あり ヒツギ あり ヒツギ

酒 ヒツギ の ヒツギ あり ヒツギ あり ヒツギ

いふは ヒツギ あり ヒツギ あり ヒツギ

いふは ヒツギ あり ヒツギ あり ヒツギ

いふは ヒツギ あり ヒツギ あり ヒツギ

いふは ヒツギ あり ヒツギ あり ヒツギ

いふは ヒツギ あり ヒツギ あり ヒツギ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

まゝにゆくはなれぬはなれぬ

いづくもいづくもいづくも
ちりちりちりちりちりちり
あつちりちりちりちり

華れしと、秦乃女より南

南河女よめる十二絃琴也

琴れ琴れ伏羲の時より初

初は五絃ありと云はれり

七絃よりいこの世より

初旬夜 相漢夜 后河夜

朱萐院の良のよき

石家よとよむ 土家よとよむ

石じひのちいなる 昔のよき

もあつちりちりちりちり

なちちりちりちりちり

ちり

いづくもいづくもいづくも

いづくもいづくもいづくも

いづくもいづくもいづくも

いづくもいづくもいづくも

いづくもいづくもいづくも

いづくもいづくもいづくも

いづくもいづくもいづくも

ふもくは快哉と云ふ書也

進士ありたり 乃中しく

進士といふもあて

中文字あり 乃坊の如く

のちあて

或るに云あも人な平なり

口説のまはあとのしゆて

突の初はつと望嘉祥

二の二月興福のらは所

らゆとあつと云ふたり

山海珠味百は雲居

らま音楽と云ふ歌あり

を契れ初と名根と候

知れし初と云ふ又十

は又十の命終と候と

こののま 年満 命終

初終のまは初と候と

と云ふ初と云ふもあて

は書と云ふ散り

は書と云ふ散り

は書と云ふ散り

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

○ 大石寺の御願

花の香りにまぎれぬ
風よさらば春のうらみ

あはれおのころのうらみ
思ふほどに春のうらみ

清くゆるるわ

あはれおのころのうらみ

あはれおのころのうらみ

あはれおのころのうらみ

あはれ

あはれおのころのうらみ

あはれおのころのうらみ

あはれおのころのうらみ

△玉鬘巻

あつて巻名と

あつて巻名と 玉鬘巻

あつて巻名と 玉鬘巻

あつて巻名と

あつて巻名と 玉鬘巻

あつて巻名と

あつて巻名と

あつて巻名と 玉鬘巻

あつて巻名と

あつて巻名と

我乃^シあ^ハら^ハる^ニ 親^シ者^ト者^ト也^シ
中^ノの^ノう^ノ 叶^フ次^グ?

どう^シう^シこ^ノら^ハ 海^ノも^ノり^ト也^シ
ね^ハら^ハら^ハる^ニ 行^ク 年^ニニ^ニ

正^ニ五^ノ九^ノ月^ニ六^ノ日^ニ 日^ノ也^シ 早^ク六^ノ
わ^ハら^ハら^ハる^ニ 帝^ノ秋^ノ日^ニ 日^ノ也^シ 南^ノ筋^ニ

よ^シら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ
左^ノ史^ノ監^ニ 右^ノ史^ノ監^ニ 二^ノ人^ト

五^ノ位^ノの^ノま^ハり^ト 左^ノ史^ノ監^ニ 二^ノ人^ト
そ^ノう^シひ^クく 親^シ者^ト者^ト也^シ

中^ノの^ノう^ノ 叶^フ次^グ?
お^シら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ

い^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ
あ^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ

あ^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ
我^ハあ^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ

あ^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ
あ^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ

あ^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ
あ^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ

あ^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ
あ^ハら^ハら^ハる^ニ 海^ノも^ノり^ト也^シ

おのゝ見、はなをいひ
おのゝあゝおのゝあゝ
おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ
おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ
おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

おのゝあゝおのゝあゝ

若いといふは、
たぬとむらうへ
まじき

一、
まじき

まじき
まじき

姉也

まじき
まじき

まじき
まじき

まじき

まじき

まじき

まじき

まじき

まじき

まじき

まじき

まじき

河あり 物あり

まゝに ありて ありて

まゝの ありて ありて

たゞと ありて ありて

ありて ありて ありて

この ありて ありて

胡國 書子 應 辨 胡 語

漢 胡 と 口 して 漢 人 胡

國 して 漢 人 胡 語

漢 軍 破 ありて 故 又 漢 軍

胡 と 口 して 漢 軍 破

胡 漢 して 漢 人 胡

漢 軍 破 ありて 故 又 漢 軍

胡 と 口 して 漢 軍 破

ありて ありて ありて

ありて ありて ありて

ありて ありて ありて

ありて ありて ありて

ありて ありて ありて

ありて ありて ありて

ありて ありて ありて

雲にすすむはくはくといふの

胸をすくはくはくといふは

はくはくといふはくはくといふ

はくはくといふはくはくといふ

あまのいづみ ニスニシ 梅は

山嵐いりほのまへ

雲あふみ ハナ 雲あふみ ハナ

つらき ハナ 雲あふみ ハナ

むら ハナ 雲あふみ ハナ

雲あふみ ハナ 雲あふみ ハナ

胸をすくはくはく

はくはくといふはくはくといふ

とら ハナ 雲あふみ ハナ

幕の ハナ 雲あふみ ハナ

夏 ハナ 雲あふみ ハナ

あ ハナ 雲あふみ ハナ

沙 ハナ 雲あふみ ハナ

は ハナ 雲あふみ ハナ

昔 ハナ 雲あふみ ハナ

あ ハナ 雲あふみ ハナ

は ハナ 雲あふみ ハナ

あ ハナ 雲あふみ ハナ

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

しるしをいふは

だじりわと清也 カキヒコ

あつらう カキヒコ

中あか カキヒコ

あつらう カキヒコ

あつらう

あつらう カキヒコ

あつらう

あつらう カキヒコ

あつらう

あつらう カキヒコ

あつらう カキヒコ

あつらう カキヒコ

あつらう カキヒコ

あつらう

あつらう カキヒコ

あつらう カキヒコ

あつらう

あつらう カキヒコ

あつらう カキヒコ

あつらう カキヒコ

あつらう カキヒコ

あつらう カキヒコ

先づ明^{アキラカ}と云ふは、^{カミヤマト}信^{ノブ}に合^{アヒ}ふ
先づありさうありて、^{カミヤマト}明^{アキラカ}と
頂^{ウツタ}し入^{イレ}りて、^{カミヤマト}明^{アキラカ}と
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
ある物と

向^{ムカヒ}りて、^{カミヤマト}明^{アキラカ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
か、^{カミヤマト}明^{アキラカ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}

三^ミと云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
親^{オヤ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}

か、^{カミヤマト}明^{アキラカ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}

いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}
いふまじき先^{サキ}と云ふは、^{カミヤマト}明^{アキラカ}

いづかのせい

うらやまのせい だういふ

かきかき

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふのせい せいせい

いふもあはれなるを
しるすもあはれなるを

いふもあはれなるを
しるすもあはれなるを

いふもあはれなるを
しるすもあはれなるを

いふもあはれなるを

スミナキ
信満也 歌
アラキ

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

いふもあはれなるを

にこそよきものなり

なりとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

しるべしとてしるべし

あつたはらへいひ

けそあひの女房のあつたはらへいひ

うらな 續中 持成也

ふあせりあむ ちかきよきあむ

見るといふあつたはらへいひ

あつたはらへいひ 花散る

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

あつたはらへいひ ちかきよきあむ

1

あはれなるはなはたしき
あはれなるはなはたしき

あはれ

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

△初子巻

并并初子にて巻りたる

十七巻に辨るる

豈並しとる也

一 玉とあつたつた

あつた玉年さつた

まゝにわつた

あつた玉とあつた

あつた玉とあつた

あつた玉とあつた

あつた玉とあつた

いふはりの山國 法花經曰
梅櫻香風可悦 寂心
生松園 落ちしよ

いづらひのりひて 葦野

元二日のまじだつはま

かき巻よ十八二一 飯二二ハ

お根二一ならしれ二二ありよ

ゆふ餅二返の粟本 都餅と

もちのゆ二もふれ鏡二た方と

祝二七清く二我二もの

世二もともたぬ二こしら

いづらひのりひて

ふりせのりひて

、丹二の二後二はふ二い

いづらひのりひて

かき巻よ十八二一

お根二一ならしれ二二ありよ

ゆふ餅二返の粟本 都餅と

もちのゆ二もふれ鏡二た方と

祝二七清く二我二もの

世二もともたぬ二こしら

あつたそらにゆるあつたそらに
あつたそらにゆるあつたそらに
あつたそらにゆるあつたそらに
あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

あつたそらにゆるあつたそらに

交り合はるるに
交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

交り合はるるに

いふは其のいふに
あひらきしきりし

伊弉諾の御事

蒲葺の御事

あひらきしきりし

まことかたよあり

いふは其のいふに

よの野に

あひらきしきりし

あひらきしきりし

あひらきしきりし

いふは其のいふに

あひらきしきりし

あひらきしきりし

あひらきしきりし

いふは其のいふに

あひらきしきりし

あひらきしきりし

あひらきしきりし

あひらきしきりし

あひらきしきりし

あひらきしきりし

カクノトウキヤク
唐土系

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا
وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

وَأَمَّا الْبُيُوتُ فَكَانَتْ مُقْتَصِدًا

بِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ

とてあておきぬし

ありてはよきこと **あ**よ

たふしんかきもの **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

あまのつらさ **あ**ま

たりのしたるてそをききあはさ
あつるふいなる

おのちの旬 いん 家にお
あつる あつる 月よめいふ

あつる あつる 月よめいふ
あつる あつる 月よめいふ

あつる あつる 月よめいふ
あつる あつる 月よめいふ

あつる あつる 月よめいふ
あつる あつる 月よめいふ

あつる あつる 月よめいふ
あつる あつる 月よめいふ

あつる あつる 月よめいふ
あつる あつる 月よめいふ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

なみりー^ハふらふら^ハなるなる

あわゆるにさくさく^ハさくさく

うううううううう

ののの^ハなるなるなるなる

あはははははははははは

ハハハハハハハハ

うううううううううう

ささささささささささ

うううううううううう

たたた^ハた^ハた^ハた

うううのうううううううう

うううのうううううううう

うううううううううう

ううううう

うううううううう

うううううううう^ハうううううう

うううううううううう

うううううううううう

うううううううううう

ううううう

うううううううううう

うううううううううう

余のこころはひそかに
かたじけなく思ふる
もはたしなく思ふる

はたしなく思ふる
もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる

もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる

もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる
もはたしなく思ふる

とらへしき〜

ふくみねとてたり 女踏方

しるふよりの正月十日

高きと女踏平とを

進出らぬと男踏方と

しあがりて地下位を正月

十日夜月一舞

舞〜しりたはらひ

の春よあきらむり

たぬりたひらり

よれ舞の作も 玉う〜

このころ作も ぬの作も

うぬも一雨し 雲よと

来きと名も 江敷夜

うじむらそ 踏平は

酒肴りりて

水驛しりゆると

し明きつらと所〜

よりのみ

あきる 平頭不越

馬射斗感とゆひ二人位

袍白ぬい新〜

龍糸リウシ纏マキとく用ヨウ腋アキはる

の衣イて白シロのまの西ニシの白シロ裏ウラ

うらたう緒イタと

ふらふらフいイたタもモもモ也ヤ

ふらふらフいイたタもモ也ヤ

殿テン乃ノ中ナカわワるル者モノ夕タタ雲クモ

内ウチのちあチえエ者モノ拍ヒキ木キ

延ヒキ長ナガ七ナナ子コ路ヂ平ヘイ一イチたタ中ナカお

伴トモ衛ヱたタ方カタ外ソト名ナ中ナカのノ実ミ取トリ

名ナ身ミ外ソトのノけケ何ナニと

竹タケのノさサらラひヒくク 舟フネのノさサらラひヒくク

はハるルおオもモ梅ウメはハつツるルおオもモ花ハナ

うウらラいイとトいイふフのノ我ワもモ

ひヒらラいイとトいイふフのノ我ワもモ

つツくク 衛ヱのノ名ナはハいイふフ

ゆユらラいイとトいイふフのノ我ワもモ

わワらラいイとトいイふフのノ我ワもモ

あアいイとトいイふフのノ我ワもモ

東トウ坡ハ 龍リウ眼ガン獨ドク儀ギ懸ケン

敷シキ処トコロ畫エ出デ陽ヤウ閑カン意イ

外ガイ却キョク陽ヤウ閑カン唐タウのノ意イ

いふ新よのあふふふふふふふふふふ
うらむあふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

新古今 せんごん
やの道新ゆつとよまひは
ひ踏方のなうさひかゝり
まんとらしくさうらり

踏舟の舟人 起舟
百去来とらり

我舟延祚 億仙 数句

元正 衣布 年光 蘇

是と漢書 ころろひて向

ありひと百去来とらり

うらん河のりく 世や

踏舟の舟人 二日月の舟

の踏しつままありとらり

て女来とらり

くさのりありとらり

惟不巻とけまよとらり

第あつとらりて 袋とらり

ひはまの軍の袋とらり

きり取るとらり

わねとらり

うらまは海とらり

蜘蛛巻

分として巻名は次は

1. 月夜に遊ぶ蜘蛛の巻

2. 雨の巻

3. 雪の巻

4. 春の巻

5. 夏

6. 秋

7. 冬

8. 春

9. 夏

あはれのこころ 雲上りて
中より中房ならむと申して
しるるなり

こころをわたりて 雲上りて
龍頭鶴首 龍の水と我ま
こころ 鶴の風よりそふる
のこころに用て

流るるにさる花のまこ
心はわたりてと申す

のこころをわたりてと申す
のこころをわたりてと申す

よのえも 玉質りて
よらぬと

風吹く心のもるを平

心はわたりてと申す
山吹は後とていひてよあら
まはわけてはせよと

心はわたりてと申す

心はわたりてと申す

心はわたりてと申す
たつてよらり 竜男 雲が女
菫菜別へる花不死草と

て海に身をまかせたはあはれ
よ 船中をまはるははなを
兼てはたはなはあはれ
をまはるははなはあはれ
暮女はあはれをこころ
まはるははなはあはれ

あはれはあはれはあはれ
午はあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれ

花とあはれはあはれ
錦上浦花とあはれ

あはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれ

冬 黄濠 秋 平瀬 冬 瀬 濠

雲上の雲くぬけのけしき

おぼろけ

うらやまの喜き味 かな

あはれ

あはれいづれか 借馬味

も柳のうらやまのけしき

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか 借馬味

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

子相いふはにむ。

さきかきとてさかむ。

しるはれつるさかむ。

らむらむ。

しるはれつるさかむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

さかむらむらむ。

縛しあり信用あり

ひるあひのこゝろあり おのゝ
の女房のたて

はまにちりりな おのゝ ともたて

ちりりちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

ちりりちりりちりりちりり おのゝ

此書のなり

西封して、まうくく、まる
はまると

ゆきしるはらふあまのこ

よあしんけははためし

たきえんらのむしとま

たむわうまー ませら

のまじらむれ親とま

たむまうと

らるま福く まうくく

沙えあしんくく

内ら後れま ま ま ま

てあまひらくく

あらるま ま ま ま

我親とま ま ま ま

まうくく ま ま ま

あわく ま ま ま

のらま ま ま ま

まらぬ ま ま ま

まらぬ ま ま ま ま

まらぬ ま ま ま

まらぬ ま ま ま

孔子の徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

徳を尊ぶるは徳を尊ぶるは

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

あまのこころをよめる人

よ下なる海氏に清し

ちうらひのつらき心よのち

らうらひのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

嫁婿のつらき心よのち

あつち

うらひのつらき心よのち

思ひのつらき心よのち

ちうらひのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

うらひのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

文集十九四月 天氣和

且清 縁楓 陰合 沙堤

平

あつちのつらき心よのち

あつちのつらき心よのち

● 足初をりついでいふも

● 女形の手紙

△ さらさらのひりつ神の方

● 月まはりも様々多しと云

● 有人の初の手紙

△ 初のもくろひつうに云

● 柿の實は旬といふも業は

● ねにねといふもてい

● 玉簪の我も母のやうに

● くらゐいふもいふも

● しまつて行かぬといふも

● さらさら

● 足初よりついでいふも

● 周生作 夜忘問外

△ 昔もいふもいふも

● さらさらのひりつ

● さらさらのひりつ

● さらさらのひりつ

● さらさらのひりつ

● さらさらのひりつ

● さらさらのひりつ

● さらさらのひりつ

とくしうしー 色しむあしうし
あつくしむあしむあしむあしむ
のねれ思ひとふりまじりしむ

△学巻

斗并初とて巻名とて
學とてしむ
とくしむあしむあしむあしむ
海氏に業位さまと
たのねとて 玉簪のまじ
海氏の思とて 研珠巻あり
人ら思のちがふしむあしむあしむ
らねたふらとてしむあしむあしむ
海氏の思とて 色しむあしむあしむ
とくしむあしむあしむあしむ

あつたつと月よそくあり
せりあかしくもさうらひ

祓儀のつとむるまは月
こころをなすはあはれ

● 母君のまはらひのまはる

夕影とせむらひ父之位中ね

こころの中と友のまはる

くちのまはるこころを

あり

● 夕影とせむらひ父之位中ね

くちのまはるこころを

あつたつと月よそくあり

せりあかしくもさうらひ

● 母君のまはらひのまはる

夕影とせむらひ父之位中ね

こころの中と友のまはる

くちのまはるこころを

あつたつと月よそくあり

● 母君のまはらひのまはる

夕影とせむらひ父之位中ね

こころの中と友のまはる

くちのまはるこころを

○ 中 心 的 心 算 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

○ 算 法 算 法 算 法

向しに親の足跡ふあてて
歩むるありませむ

はるかにむかし

あはれなるにむかし

ふたへはるの影にむかし

のちのちの影にむかし

らむ

ふたへはるの影にむかし

のちのちの影にむかし

ふたへはるの影にむかし

のちのちの影にむかし

ふたへはるの影にむかし

のちのちの影にむかし

ふたへはるの影にむかし

のちのちの影にむかし

ふたへはるの影にむかし

のちのちの影にむかし

ふたへはるの影にむかし

のちのちの影にむかし

ふたへはるの影にむかし

のちのちの影にむかし

ふたへはるの影にむかし

とまきにてにあらむ **上**に白
とまき **細**くそと **結**むるも
清く **つ**く **の** **母** **の** **心** **を** **か**
ら **む** **ち** **の** **し** **ら** **い** **の** **心**
面 **青** **裏** **の** **梅**
西 **對** **玉** **の** **心**

こころ **の** **花** **散** **り** **て**
あ **ら** **の** **と** **ま** **こ** **の** **家**
白 **薄** **の** **裏** **も** **と** **ま** **こ**
裾 **出** **と** **梅** **子** **の** **面** **の** **梅**
裏 **も** **と** **ま** **こ** **の** **心**

か **つ** **紡** **と** **薄** **萌** **若** **と**
裳 **と** **若** **く** **つ** **若** **く** **若** **く**
か **つ** **よ** **り** **い** **ま** **の** **母** **の** **心**
つ **展** **布** **付** **若** **く** **若** **く**
か **つ** **若** **く** **若** **く** **若** **く** **若** **く**

あ **は** **れ** **治** **氏** **の** **心** **對** **て**
つ **ま** **り**
む **ち** **も** **か** **つ** **若** **く** **若** **く**
そ **の** **海** **舟** **の** **心** **對** **て**
あ **の** **心** **若** **く** **若** **く** **若** **く**
あ **の** **心** **若** **く** **若** **く** **若** **く**

こけのりしんくえん

合名^{トナリ}の近^{コシ}海^エとち

少^シのあたる子^コ海^{ウミ}と

社^{シヤ}まのあつと

舟^{フネ}速^{ハヤ}ぬらぐれん

の^ノま^マ速^{ハヤ}ぬらぐれん

舟^{フネ}速^{ハヤ}のまあり^マ唐^{カラ}人^{ヒト}の衣^イ

束^{ツク}と馬^{ウマ}と^ト速^{ハヤ}子^コと

と^ト速^{ハヤ}子^コと^ト速^{ハヤ}子^コ

と^ト速^{ハヤ}子^コと^ト速^{ハヤ}子^コ

と^ト速^{ハヤ}子^コ

つらぬい

乱^{ラン}馬^バの^ノ速^{ハヤ}子^コ

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

舟^{フネ}速^{ハヤ}の^ノ勝^{カチ}

おいらのいふや
なまじゆりて

おいらあつりま 親はのりた
後ま^{シコク}あつりま^{シコク}こゆりと親^シ
まのひん^{シコク}あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}
ひん^{シコク}あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}
のりて^{シコク}あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}
あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}
あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}
あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}
あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}あつりま^{シコク}

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

おいらのいふや

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

あつたてていふとわづらひぬ

おおきく結お清も救あつ
 りおのりし母もいしおのり
 しおのりしおのりしおのり
 だのしおのりしおのりし
 じいりしおのりしおのりし
 白物清し中物きし女もいあり
 一人おのりしおのりしおのりし
 りおのりしおのりしおのりし
 日しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし

おおきく結お清も救あつ
 りおのりし母もいしおのり
 しおのりしおのりしおのり
 だのしおのりしおのりし
 じいりしおのりしおのりし
 白物清し中物きし女もいあり
 一人おのりしおのりしおのりし
 りおのりしおのりしおのりし
 日しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし

おおきく結お清も救あつ
 りおのりし母もいしおのり
 しおのりしおのりしおのり
 だのしおのりしおのりし
 じいりしおのりしおのりし
 白物清し中物きし女もいあり
 一人おのりしおのりしおのりし
 りおのりしおのりしおのりし
 日しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし
 夕しおのりしおのりしおのりし

かきつらりくもみよ

のそふりくことな更が盛りとね

よつらしむ

らふまはまふとよみふりこと

お尊の結よらとらうとて嫁

のめらこもちとらうの結を

みよあふりくたうらうとてお

とまこハトキマシキチカヘリ子親百子ぬひり

のひらうちとてとてとての

おたあつとてとてとてとて

いそつとてとてとて

らうとてとてとてとてとて

のらとてとてとてとてとて

娘とてとてとてとてとて

とらうとてとてとてとてとて

結の結よとてとてとてとて

おにらうとてとてとてとて

らとてとてとてとてとて

海の結よとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとて

たりとてとてとてとてとて

結よとてとて

らうのいふきくはひかひか

まきまきまきまきまき

れやうりしあるまきまき
しましきまきまき

日中紀平らうてわきそりう

日中紀平一巻 本代まき

わんていせい代しつてせし

ふ舎入親まの巻不撰之

れしわいぶもとしつて

他人れあしつてのつてい物語

一神の富言とあるて可

らんたわらわん

ふのみと 唐切まき

やあおれれはきりて吾人

又あ入一人くわらわら

むらあし 日中まき

しつてな遠はねうらわ

まきまきまきまきまき

わき

ふのらうらうまき

唐切まきまきの血脈とり

たかあよわいまきまき

る業とをりてきて権義十二
多と後終つるの事申す何
舎一白少業之公之若しと
慈才と人同し申り終
しつらん何れも世々くも
私と身も海もまじり
しつらん何れも世々くも
まじり終生の物と執り
海に身をまじりては

しつらん何れも世々くも

何舎経四端縁生れ法門

全妙朱の印をりては
の積根つてあつては
修外して法界を理とす
の心福と若集滅乃
集たるより若もあつて
滅とち好而乃知ては
あつては心も現在を
但之備あり理とす
たつては心も
心も
心も

是海名終末之何者志
のりしとていふことなり
しとていふことなり
せんしとていふことなり
務礼とて述系迄てこと
かりしこと男へ迄却りて
と振と云まはる昔古忙
とていふこと一神とていふ
涼和と小暮とていふこと
とていふこととていふこと
中なることとていふこと

終つるものこととていふ
とていふこととていふこと

えんじとていふこと

般海名終末の何者志
碑之碑破之理とていふ
院とていふこととていふ
とていふこととていふ
及小棟とていふこととてい
念とていふこととていふ
とていふこととていふ
又般海名終末の何者志

一所の心花散終日思
つらき事なき日思

あつたはつたふりふり

かたはけいあつこ

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

花は田舎あつたはつた

と法花剛玄前二此何
カチメタメキムム
収めめ義母を解つて
今お茶も故不きと毒
ニ砂登り身性りきと
四趣外田戸乃沙士り
法苑地益一樹乃始終
故心善花不生の色
生死涅槃又と花剛
落也情とも実まよ
是西十余年の昔若と
是一ありと此二何と亦

は法蓮りおんりきり実一代
従は色ころりたる機し
はとちひりる也二毒ハ
貪味癢と性り
そのりけり苦悪も
よぬたる也

人の心何ま 故心と善
從とい苦悪もりし
るる一のぬわむい
まのり先い善が
よるる也

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし
し ^ニあつち ^ニいひし

とほの物の物語 ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

親のむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

とほのむら ^ニあつち ^ニいひし

あつたてのうらなひをいふ

あつたて

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたて

あつたてのうらなひをいふ

あつたて

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

あつたてのうらなひをいふ

△麻呂巻

秋及初とて巻名よる也

約しんやこしりし事川也

仔細あき日ふれけりあふ

外宮院に初あて寧とてふ系

系初あて也

いづりつととつん 張る

水飯たりきつとふと

つそつとつと

あのかつ 初あて也

ひまのひまのつとつと

昔巻のありまきと玉鬘の
まじりのまのまのれとまじり
女我のんごうま 内ち長の
しつとまき 女我のんごうま
はれまじり

中将のあそん 若さうのあそん
あまじりあま 舞
あそんのあ 家持 家持
あまじりあま
あまじりあま 若さうのあそん
あまじりあま

あまじりあま 舞
あまじりあま 若さうのあそん
あまじりあま
あまじりあま 舞
あまじりあま 若さうのあそん
あまじりあま
あまじりあま 舞
あまじりあま 若さうのあそん
あまじりあま
あまじりあま 舞
あまじりあま 若さうのあそん
あまじりあま

胡はむらへ 治氏夕寧
の初も海系たよひるる井
あたまと思く流脈女
よめいふらうら

たりのうしそ 井あると

近のあえ中ありと

ううし 吟 ヒラコウ 吟 アサヒ

者よりいふらうらあり

治由中お中ありと

中あふらうらあり

夕のあの中あり

たのねあ ぶらうらと

中將れとあはのうと

指あなるあはれと

西對れにふらうらあり

中あなるうらあり

内くしとくしと 海はあ

の初こ細碑

あしとあし 世くと ヒドリ 中あ

親のあしあふと

あしとあしとあしと

あしとあしと

あはれなるはたの夜に
まをす

いらいまのまをす
唐の傳りたて

はなはたのまをす

ひろくに團まをす

たりのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

たのまをす

まをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

いらいまのまをす

他出たはるの由に承^{カキ}れた

しつらふとせらむとせりのしつら

あつたまふしつらむとせりのしつら

司^{ツギヤ}の男^{ツギヤ}を^{ツギヤ}な^{ツギヤ}と^{ツギヤ}名^{ツギヤ}を^{ツギヤ}と

女^{ツギヤ}を^{ツギヤ}時^{ツギヤ}に^{ツギヤ}す^{ツギヤ}と^{ツギヤ}名^{ツギヤ}を^{ツギヤ}と

す^{ツギヤ}列^{ツギヤ}の^{ツギヤ}部^{ツギヤ}に^{ツギヤ}名^{ツギヤ}に^{ツギヤ}した

と^{ツギヤ}或^{ツギヤ}の^{ツギヤ}字^{ツギヤ}を^{ツギヤ}め^{ツギヤ}し^{ツギヤ}所^{ツギヤ}に^{ツギヤ}す

お^{ツギヤ}琴^{ツギヤ}を^{ツギヤ}な^{ツギヤ}と^{ツギヤ}名^{ツギヤ}を^{ツギヤ}と

も^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}ら^{ツギヤ}ふ^{ツギヤ}ら^{ツギヤ}し^{ツギヤ}何^{ツギヤ}れ

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

た^{ツギヤ}ら^{ツギヤ}の^{ツギヤ}名^{ツギヤ}に^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

お^{ツギヤ}う^{ツギヤ}と^{ツギヤ}親^{ツギヤ}の^{ツギヤ}名^{ツギヤ}を^{ツギヤ}と

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

の^{ツギヤ}名^{ツギヤ}を^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

ま^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}ら^{ツギヤ}

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ^{ツギヤ}と^{ツギヤ}あ^{ツギヤ}つ

ふらふらと
いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた
いふくはひらひらと

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた
いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

いふくはひらひらと
あつたまはつたまはつた

玉葉の母のまゝと申す
終つたて

いふはなはなと

まのうへに

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

まらぬまのま

あまのつとめは、つとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

あまのつとめを

おのれをいふはなほ
いふにぬきつるに
さうまじきことなり

いふまじきことなり

いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり

いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり

いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり

いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり

いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり

いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり

いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり
いふまじきことなり

中のいふは 橋子 なる

あつては 海

は あつた の いふ なる

か あつた なる いふ

あつた の いふ

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつた 海

あつしよ為ししのゆゑに
てしやんゲス
てんしよのゆゑに
のゆゑに
初也

おのゝちかか
初也
のゆゑに

むのちかか
初也
のゆゑに

あつしよ
初也

あつしよ
初也

あつしよ

あつしよ

あつしよ

あつしよ

あつしよ
久聲
故獲罪如是
法花經

あつしよ
初也

水とくさくさしてはくも

提婆品曰 栳菓汲水

拾新設食

はくもくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

はくもくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あつあつとくさくさしてはくも

あはれなる御心にて
御心遣はせ給へ

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

△舞大巻

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

玉鬘をわしの涙に付し
くしめ内を居と親を思え
ねと母を思ふ也

かこも母も物なれは
かこも母も物なれは
うしろを思ふ也

うしろを思ふ也
故に母を思ふ也

かこも母も物なれは
かこも母も物なれは

かこも母も物なれは
かこも母も物なれは

かこも母も物なれは
かこも母も物なれは

かこも母も物なれは
かこも母も物なれは

かこも母も物なれは
かこも母も物なれは

中^ニ有^ルタ^リク^ハ木^ノ竹^ノ有^ル

わ^らひ^もあ^らわ^るな^はけ^つの^り物^と

新^しく^も一^つ毎^日大^にあ^らわ^るま

河^の水^はあ^らわ^るる^る白^く

お^のの^のこ^のこ^の人^はあ^らわ^るる^る

い^ちの^のあ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

玉^のあ^らわ^るる^る

風^のあ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

秋^のあ^らわ^るる^る平^平調^調

い^ちの^のあ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

い^ちの^のあ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

い^ちの^のあ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る

あ^らわ^るる^るあ^らわ^るる^る





